

スカイプを用いた英語個別指導の学習効果と学生の反応

永松 美保*

A Study of the Effectiveness of One-to-one English Lessons via Skype and Students' Responses to Them

Miho NAGAMATSU*

Abstract

Nowadays, thanks to the development of electronic communication systems, we can not only talk with others who are in faraway locations but also see their faces while we talk. Skype is one such system. Some companies have begun to run English conversation schools through the Internet, using Skype. Instructors at these schools usually teach students one-to-one for an agreed period at a cheaper tuition rate than at offline English schools, and students can take lessons wherever they are so long as they have an Internet-connected PC or a smartphone. Due to these advantages, studying English via Skype has gradually become more widely accepted at tertiary educational institutions. The author thinks that this teaching method effectively accustoms students to English pronunciation and improves their spoken English ability, while also enhancing their motivation to study. In 2014, she adopted it in her English communication classes at Kyushu Kyoritsu University. In this paper, she reports how successful it has been in improving students' motivation to study English and how they have reacted to it.

KEY WORDS : English Teaching, Student-centered English Study

* 九州共立大学共通教育センター

* Kyushu Kyoritsu University, Career and General Education Center

はじめに

近年の急速な通信網の発達で様々な電子機器を用いて、遠距離にいる者と容易にコミュニケーションができるようになった。そうした通信網の発達の恩恵を受けて、テレビ電話のようなスカイプも質の向上と共に、ビジネスにも活用されるようになった。スカイプを用いた国境をまたいでの社内外の会議もその1つであり、また近年ではスカイプを用いた英会話事業も展開されるようになった。スカイプ英会話の歴史はまだまだきわめて浅いものである。世界でインターネットを用いた英会話の学習が始まったのは1997年頃のこと、日本で開始されたのは2000年だということである¹。現在、英会話スクール受講者が作成した資料によると、日本にスカイプ英会話スクールは約163校存在している²。

徐々に浸透してきたスカイプ英会話であるが大学に導入されたのは、2010年頃である。2010年頃に京都大学大学院、京都産業大学、流通科学大学に導入されている³。2014年11月には、東京大学でも導入されることになり、次第に大学に広まってきている⁴。

スカイプ英会話を大学に導入するという歴史は浅く、大学によってもその導入の仕方は大いに異なっているが、筆者自身が本務校の講義の一部に導入することによって、個別指導によるオンライン教育のもたらすメリットは非常に大きいものだとことを実感した。実際、イランの S. ヨーセフィ (Samaneh Yousefi) は、スカイプなどのインターネットのソフトウェアが、“authentic, student-centered, communicative activities”⁵ を提供できると指摘し、その効果についてこれまでの教授法との比較を行っている。たしかに導入に費用が掛かるということと講師(業者)の資質を見極める必要があるという難点があり、また実際に使える英語を習得するにはかなりの受講時間数が必要である。しかしながら、スカイプ英会話を授業に組み込むことで、日常生活ではほとんど英語を使用することがないという状況で英語を学習している学生達に実用的英語学習への学習動機を与えることができると思う。そのことは、学習後の学生へのアンケート調査から読み取ることができる。

本論で扱うスカイプ英会話学習とは、スカイプを用いて行うマンツーマン形式の英会話学習のことに限定する。いわゆるテレビ会議方式、多数対多数、一人の講師対多数の学生という学習方式は対象としない。あくまでも、一人の講師が一人の学生を30分ほど指導

する授業形態に焦点を置き、個々の学生が必然的に英語を話さなければならない状況になるマンツーマンの学習に限定する。

この方式の最大のメリットは、「学生が主体となり、実際に英語話者講師と30分程自分のレベルに合わせて英語を話すことができる」ということだと思う。

本論では、昨年度、本務校の一部の英語講義において導入したスカイプ学習からこの種の指導法の有効性を考えてみる。

1. 九州共立大学での事例研究と対象学生の英語力等について

九州共立大学の学生達の英語力は平均的大学生の英語力よりも低く、学部特性上、学生達は英語学習にそれ程の意欲を抱いていないと思われる。今回、そうした学生達に半年間、或いは、1年間スカイプを利用して英語話者による個別指導を受講させ、彼らの英語コミュニケーション力と実用的英語学習へのモチベーション向上をはかろうという試みを講義と連動させて行ってきた。半年間、1年間といっても大学の講義は、90分講義が前期15回、後期15回であり、そのうちの各13回25分という限られた時間をそうした指導に充てているので、コミュニケーション力の向上には直接的に至らないだろうことは予想できるが、一定期間、学生達が英語話者による個別指導を受講することで次のステップに繋がれば良いとの期待を込めてこうした取り組みを行った。筆者自身、講義でのスカイプ利用は初めての試みであり、多くは英語を不得意とする学生達も初めてこうした講義を受講している。

1.-1. 対象学生：九州共立大学スポーツ学部2年生、英語Ⅲ、Ⅳ、コミュニケーション受講者(55名[男子38名、女子17名]、2クラスに分割)

学生達の多くは、中学校レベルの基本的文法事項を習得できていなかったり、中学校で学習する英単語を理解できていない。また、出身高校が普通科ではない学生も多く存在しており、学生の一部は普通科の高校生が高校で学習する文法事項を学習していないという現実がある。本来なら、自学学習において行うべき個別指導であろうが、学生達の英語学習への意欲や英語力を鑑みると、英語話者からの個別指導中での教員サポートの必要性、及び、強制的に行わないと取り組まないということが考えられ、講義の一環として行った。

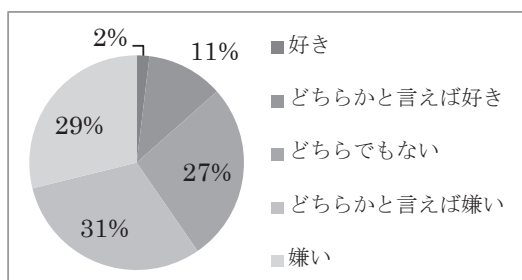
2. 使用教材と指導内容・方法

九州共立大学では、英語講義においては共通テキストを採用しているの、コミュニケーションクラスの統一路線を逸脱しない範囲で講義ではスカイプレッスンを導入した。指導内容としては、共通テキスト内の一部のダイアログを用いて、発話・発音指導、穴埋め問題等を英語話者講師からの個別指導で行うと共に簡単な日常会話の指導も行った。

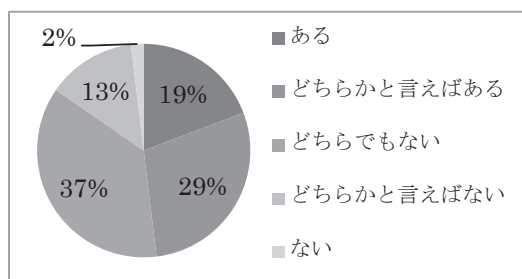
学生には、彼らの英語力を鑑みて本来なら講義では使用を許可していないスマートフォン、及び、パソコンでの英単語検索も許可して、個別指導に臨ませると共に、援助を求める学生には担当教員が時々英語話者講師とのコミュニケーションが上手く取れるように手助けをした。

3. 4月初回講義でのスカイプを用いた個別指導への学生アンケートの結果（52名回答）

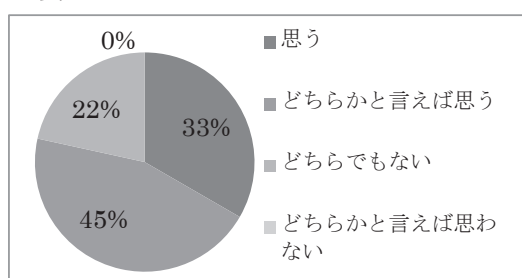
1. 貴方は、英語が好きですか



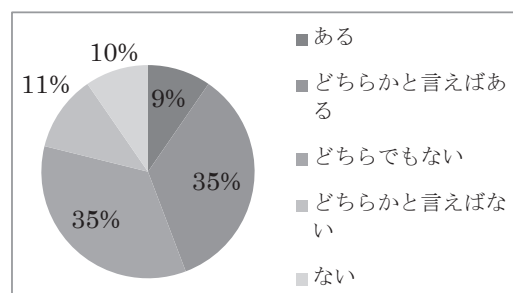
2. 今まで英語を学んできて、貴方は英語に対して抵抗感がありますか。



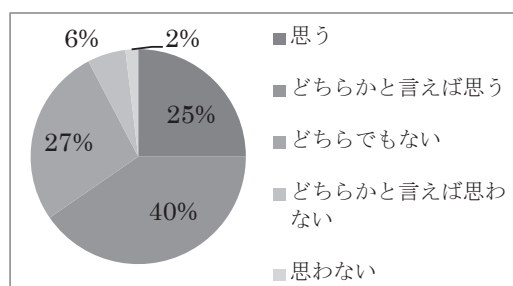
3. 交通網の発達で、世界が身近になってきています。21世紀を生きるのに、将来、貴方は英語運用能力が必要だと思いますか。



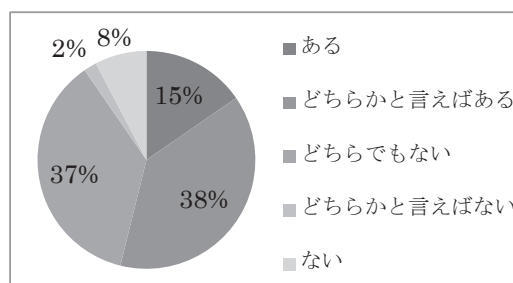
4. 貴方は英語圏の国々、或いは、その文化に関心がありますか。



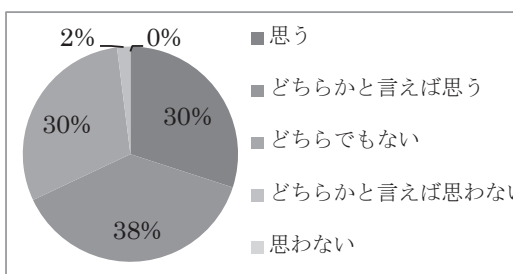
5. 貴方は英語で意思疎通ができるようになりたいと思いますか。



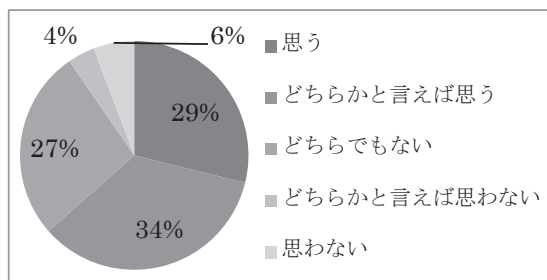
6. この講義では、スカイプを利用して英語話者による英語の個別指導も行おうとしています。貴方はこうした講義形式に関心がありますか。



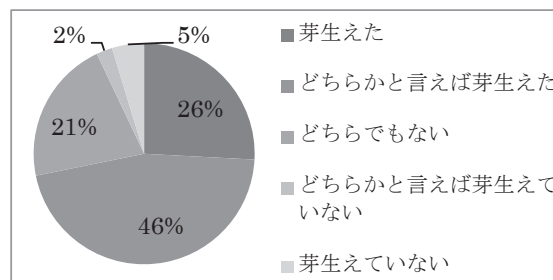
7. スカイプを利用した英語の個別指導は、実用的英語能力を習得するのに有効だと思いますか



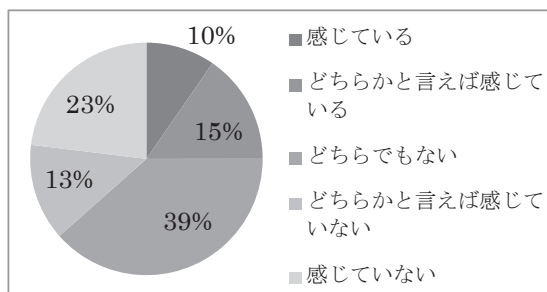
8. スカイクを利用した英語の個別指導で、貴方は少しでも実用的英語能力を向上させたいと思いますか。



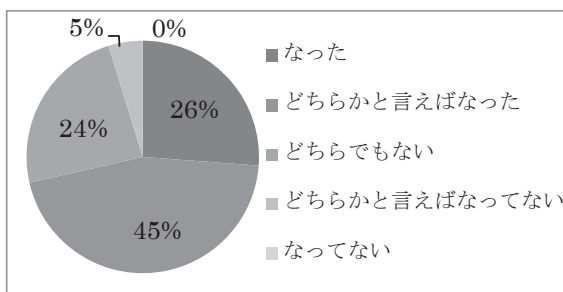
2. 今までスカイプレッスンを受講してきて、貴方は英語に対して関心が芽生えましたか。



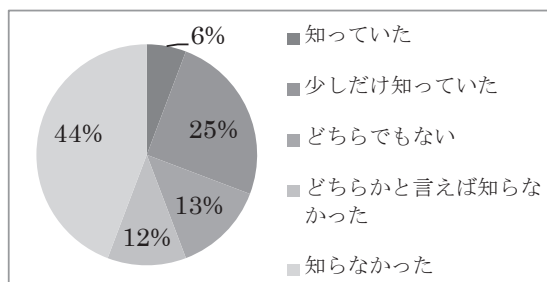
9. 英語を話すことに慣れていない人が多いと思いますが、貴方は英語を話すことを恥ずかしいと感じていますか。



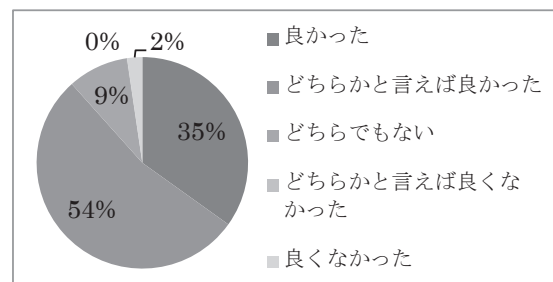
3. スカイプレッスンを受講後、貴方は英語で意志疎通ができるようになりたいと思うようになりましたか。



10. スカイクを利用して、英語話者の口の動きを見たり、真似たりして、発音指導等を受けられるレッスンの存在を知っていましたか。

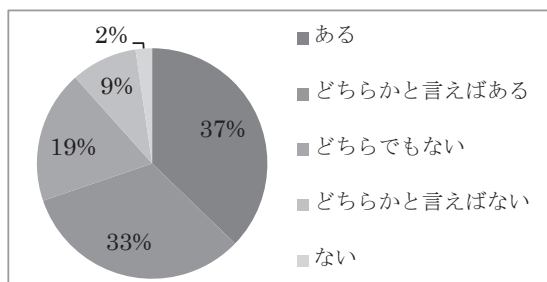


4. この講義では、スカイクを利用して英語話者による英語の個別指導も行ってきました。貴方はこうした講義形式は良かったですか。

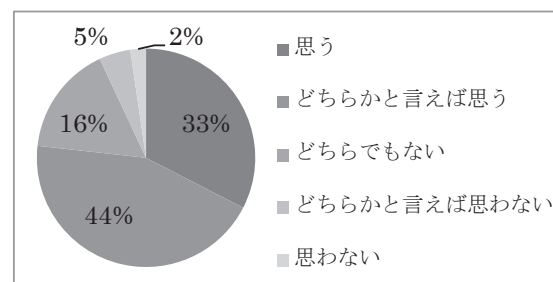


4. 前期終了時(13回受講時)のスカイクを用いた個別指導への学生アンケートの結果(43名回答)

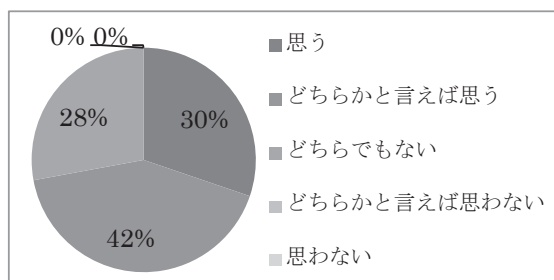
1. スカイプレッスンを受講後、貴方の英語に対する関心に変化がありますか。



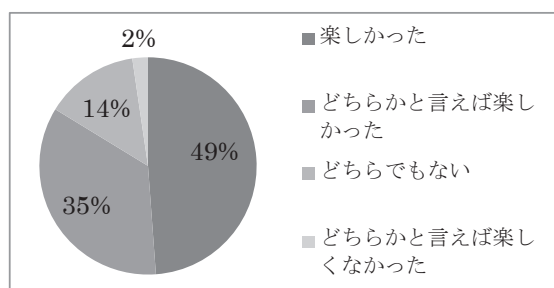
5. 半期、スカイクを利用した英語の個別指導を受講して、こうした個別指導は実用的英語能力を習得するのに有効だと思いますか。



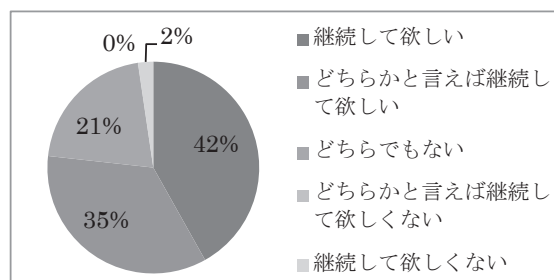
6. スカイプを利用した英語の個別指導を受講して、貴方は少しでも実用的英語能力を向上させたいと思いますか。



7. スカイプレッソンは、楽しかったですか。



8. 今後もスカイプレッソンを継続して欲しいですか。



5. スカイプレッソンについての学生の感想

【前期終了時】

* 肯定的意見

- 1) もっと英語が話せるようになりたいと思った。あまり喋れなくて相手に申し訳なかった。
- 2) やっていると難しいが、やっているうちに身に付いている気はする。
- 3) 楽しかったけど、難しかった。
- 4) もう少し英語が理解できていれば楽しいだろうと思った。
- 5) これをするのは初めてだったので、出来て良かったです。
- 6) とても楽しく英会話ができました。
- 7) 最後の4日ほど同じ先生だった。違う人と喋りかけたので、少し残念だった。

* 否定的意見

- 8) 日本語が話せる人がいいです。(他1名)
- 9) 普通の授業がいい。(他1名)

【後期終了時】

* 肯定的意見

- 1) 実際に話している英語を聞いて会話をするのは、ものすごく難しかった。でも、その反面、ものすごく楽しかった。
- 2) 最初は全く話せないし、相手の言っていることもわからなくて、嫌だった。けど、何度もやって行くと少しずつ理解でき、もっと英語が話せるようになったらいいなと思った。
- 3) 外国人と喋る機会は少ないので、スカイプレッソンはとても良いと思います。

* 否定的意見

- 4) たまに、本当に全く何が言いたいのか英語で言われて分からない時があり、困惑する。
- 5) 難しすぎて、焦ることがある。苦手。
- 6) 少し日本語を話せる先生の方が良かった。(他4名)
- 7) 同じ先生がレッスンをして欲しい。(他1名)

6. 後期初回と最終回レッスンでのスピーキングテストの結果

マンツーマン形式によるスピーキングテストを後期初回と最終回レッスンにて行い、スピーキング力の向上を測った。試験内容は、スカイプレッソン導入業者が作成しているスピーキングテストは難易度が高かったため、一部内容を変更して九州共立大学学生用に易しくしたが、スピーキング力の向上を測ることが目的であるので2回の試験内容の難易度はほぼ同一にした。

* 初回試験 (10月7日)

※総受験者数：37名⁶

※平均点：5.7点 (15点満点, 「Upper Entry Level」と「Beginner level」の間ぐらいを意味していると思われる。)

* 2回目試験 (1月6日)

※総受験者数：46名

※平均点：6.4点 (15点満点, 「Beginner level」ぐらいを意味していると思われる。)

10月7日と1月6日テストの比較	人数	比率
点数向上	17	32.08%
点数ダウン	10	18.87%
同スコア	3	5.66%
1月6日のみ受講	15	28.30%
10月7日のみ受講	7	13.21%
欠席	1	1.89%

7. スカイプ個別指導の効果と課題

一斉授業においては、居眠りや私語をして講義に積極的に参加していない学生も、スカイプレッソンはマンツーマン形式の指導である為その間は英語話者講師の指導に従い、発話をしている。学生が学習主体となるオンライン個別指導の利点が現れている結果だと思われる。何人かの講師に学生の取り組み状況を尋ねてみると、総じて真面目に取り組んでいるようであるが、更なる発音指導が必要なことと英語の音声に慣れさせる必要があることは指摘された。

学生のスカイプレッソンへの取り組み方はやはり様々である。電子辞典を片手に積極的にレッスンに取り組み、自らのコミュニケーション能力を向上させようとしている学生や、こうしたレッスンを講義を離れても継続させたいと感じている学生も存在している。スカイプによる個別指導導入目的として英語運用能力向上を目指すきっかけを学生達に与えることができればと考えていたので、その点では一部の学生に限られているかもしれないが、成功だったと思う。学生アンケートを見る限りにおいても、コミュニケーション能力向上の必要性和、向上させたいと希望している学生が多数であること、また、こうした講義への関心が高かったためスカイプによる個別指導導入は学生達に英語運用能力向上への学習動機を与えることは出来たのではないかと考えている。

但し、幾つかの問題点は残っている。まずは、予算面である。今回、こうした個別指導を実施できたのは、本務校から予算配分されたことによるものであり、今後、継続するには先のスピーキングテストの結果以上に、この指導法の効果と有効性を示して行くしかないと思っている。今回は、筆者自身が赴任したばかりの大学での初めての試みであったので、本務校の共通カリキュラムを意識し、スカイプレッソン導入以前に学生達への基礎的発話・発音指導が出来なかったが、個別指導をより効果的にする為には、こうした準備段階を経てスカイプレッソンに繋ぐ必要があると感じている。また、スカイプを使用するにはパソコンが必要であり、学生がパソコン操作に熟達しておらず、上手

くパソコン操作ができない学生もいるし、オンラインでの指導ゆえ、スカイプの繋がりが悪く十分な指導ができない場合もある。そして、こうした講義はパソコン教室の使用が必要となるが、パソコン教室での講義では、学生がレッスン時間以外にもパソコンを操作して、残りの講義には耳を傾けないという問題点もある。

8. 終わりに

中学校、高等学校と何年間も英語を学習してきても日常会話すらままならないと日本の英語教育の問題点が指摘されて久しい。そうした世論の声とグローバル化による社会情勢の劇的变化で、現在の中学校、高等学校における英語教育はかつてのような文法、読解を重視したものだけではなく、コミュニケーション能力の向上を目指す実用性へと大きく動いている。小学校でも英語活動が2011年度に5、6年生に必修化され、文部科学省は2020年度までを目処に英語を教科化すると共に学習開始年齢を早めようとしている。

では、大学での英語教育はどうであろうか。多くの大学で、短期、長期に拘らず英語圏への語学研修が行われており、また、多くの大学でフルタイムの英語ネイティブ・スピーカーが採用され、彼らを中心に講義を離れて昼休みなどを利用して英語カフェ、英語ヴィレッジ、英語ラウンジなどが開催され、学生達へ自由に英語を話す機会を提供している。英語に関心を抱いている学生達は、こうした語学研修や外国人講師による会を利用し、自らの英語運用能力を向上させようとしていると思う。しかしながら、英語に多少の関心はあっても海外研修に出掛けるまでに至らない学生や⁷⁾、自らの英語力を鑑みていきなり外国人講師らによる会に参加することを厭う学生達には、教員側から彼らに英語を発することへの自信をつけてあげる機会を提供しないと、英語運用能力を身につけることに積極的にはならないのではないだろうか。2010年頃に少数の日本の大学や大学院で始まったスカイプを利用した英語運用能力向上の試みは、現在、高等教育機関で広まりつつある。講義の一環として導入している大学、自学学習において導入している大学—それぞれの運用の仕方は異なっているが、島国日本で外国語を習得する環境に恵まれていない若者達へ日本にいながら外国語習得が可能になるような環境を整えてあげたいとの思いは同じはずである。近年の急速な通信網の発達のおかげでこうしたメソッドを低予算で活用することが可能になり、諸外国と経済的に競争して生きることを強

いられる21世紀を生きる若者達にはその利点を活用し、英語運用能力向上のモチベーションを得て欲しいと願うものである。

注：

本稿は、拙論「スカイプを利用した英会話個別指導の試みと学生の反応」(『紀要』第43号、九州英語教育学会)の一部に大幅に加筆修正を施したものである。

1. 成田勝行, 「オンライン英会話スクールの歴史」, 4 Feb. 2015 <<http://www.ecominc.co.jp>> 参照.
2. オンライン英会話の比較王, 「オンライン英会話スクール一覧」, 5 Feb. 2015 <<http://hikakuou.net/school>> 参照.
3. マイスカイプイングリッシュ, 「スカイプ英会話が学校に導入」, 4 Feb. 2015 <<http://venture-plus.com/news/59762>> 参照.
ワンズワード, 「日本初! 大学にスカイプを使ったオンライン英会話レッスンを提供」, 5 Feb. 2015 <<http://yu-kimatsuoka.cocolog-nifty.com/onesword/2010/11>> 参照.
4. 「オンライン英会話, 東京大学の国際人材育成を支援」, 25 June 2015 <<http://ph.isajijournal.com/headline/15802-rarejob-supports-tokyo-university.html>> 参照.
5. SamanehYousefi, “Comparison of Traditional and Video Mediated Learning of English: Tracking a New Approach,” *Procedia – Social and Behavioral Sciences* 98 (2014): 1940.
6. 後期初回レッスンでの試験だったので、履修登録変更を担当教員に伝えていない学生がおり、講義には出席しているがスピーキングテストは受験できない学生が多々おり、受験者数が少なくなっている。
7. 近年内向き志向の学生が増加しており、2004年をピークに海外留学をする日本人学生数は減少している。経済的理由、少子化も否定できないが、近隣アジア諸国と比較すると日本人学生の内向き志向は顕著である。太田浩, 「日本人学生の内向き志向に関する一考察—既存のデータに国際志向性再考」, 『留学交流』Vol.40, 7月号, 2014年 参照.